

大学生はなぜ 検索エンジンと ウェブサイトを選ぶのか

2021/11/13

三田図書館・情報学会 研究大会

慶應義塾大学大学院 岩瀬梓

情報行動における「情報源」

「単純な道具」扱いからの脱却

情報行動の中にどう位置付けるかの検討

- 文脈の一部であり, 人の認知の外で変化するもの¹⁾
- 利用者が意味付けを行う対象
 - 個人が選好に従って位置づけるもの^{2), 3)}
 - コミュニティの中で作り出され, 解釈され, 再構成されるもの⁴⁾



物理的側面と意味付けを併せた情報メディアが
情報行動の中で選択される判断プロセスに着目

情報メディアの意味付けを明らかにする試み⁵⁾

大学1年生の学習における情報メディアの選択
全体の傾向:

- 複数の基準による多様な判断プロセスがある
- 判断基準に優先順位がある

- ① **規範**に基づいた判断
「教員の指示には従うべき」
「使って良いものか」「使うべきものか」
② 他の基準に基づいた判断

利用の経験

教育の経験

物理的状況

機能



情報メディアの選択の 判断基準と個人の意味付け

経験, 状況は個人や個別の場面に依存する
機能は物理的に定まる⁶⁾



物理的に同一でも, どんな機能, 性質のものか
人/場面によって異なる解釈をされうる⁷⁾

目的

伝統的には
簡単に利用でき、使い慣れたものであるために
大学生に選ばれやすいとされてきた^{8),9)}

検索エンジン, ウェブサイトに着目

それらを学習において大学生が
どんな機能, 性質のものと解釈して選択するか
明らかにする

8) Lombardoら 2003

9) Warwickら 2009

方法

既存のインタビューデータの二次分析

学習における情報メディアの選択とその理由を問う

半構造化インタビュー

調査対象: 2019年度 大学1年生18名

2020年度 大学2年生15名

情報探索に言及された事例47件を抽出

1年目調査25件, 2年目調査22件

検索エンジン, ウェブサイトの 解釈の類型

分析対象

- ウェブサイトを中心に解釈: 16件
- 検索エンジンを中心に解釈: 15件
- 両方を解釈(どちらが解釈の中心か不明): 5件

分析対象外

- 両方について独自の解釈を行わなかった
 - 教員の指示にそのまま従った: 8件
 - 他に利用の労力の少ないものがあった: 3件

「ウェブサイトは望ましくないもの」…6件

- 使わないよう直接的に指示されてはいない
- 教員の指示や過去の教育を自ら解釈

レポートには引用文献を示さなければならないと教わった

“無断転載”という行為への批判を目にしたことがある

ウェブサイトは“著作権とか出版元が明記されているのがな”いため、レポートの論拠として望ましくない、使えない

K

(1年目調査)

「ウェブサイトこそ合理的」

- 特定のウェブサイトこそ最も良い…3件

特定の情報を得るために合理的
わかりやすさ/信頼性を利用経験と過去の教育に基づいて解釈

“脳科学辞典”というサイトはわかりやすく、
“ちゃんと著者とレビュアーがついていて…信憑性が高い”

E

(2年目調査)

- 時事/実用的情報, 統計情報が入手できる…5件
必要な情報の種類を分析, その入手のために合理的
- 図書や論文よりもわかりやすい…2件
「なんらかのウェブサイト」こそ他よりも合理的

「ウェブサイトは時事/実用的情報、統計情報が入手できる」

- それまでの利用経験からの推測に基づく解釈

“社会人の方もインターネットを頼りに多分、
調べながらお仕事すると思うので”マーケティング系はウェブサイト

M

(2年目調査)

- 教員がウェブサイトの利用に対して否定的でも最も合理的な情報メディアとして選択

“「企業のものは使っちゃ駄目です。
ちゃんと本になっているものから持ってこなきゃいけないです」と
その科目で指示があった

P

(2年目調査)

“でも、実験の回によって題目が違ったりするんですけど
…既に用いられている技術とかを調べるとかってなると、
企業の<ウェブ>ページとかを見ないと分かんなかったりする”

「ウェブサイトは 図書や論文よりわかりやすい」

- それまでの利用経験に基づく解釈
- 教科書, 専門書や論文を
過去の利用経験からネガティブに解釈

ウェブサイトは“覚えやすい”, “わかりやすそう”もの



本は“深くなりすぎちゃって, 面倒くさくなる”もの

R

(1年目調査)

「検索エンジンは手軽で、使い慣れたもの」…8件

- 利用経験に基づいた解釈
 - “楽”(A1)であり“習慣がついちゃって”(C1)いるもの
- 他の情報メディアについて教育を受けた上で、検索エンジンの手軽さを評価

DBの使い方を“授業中に説明されてたんですけど、なんか使いづらいなと思って…手順が多くて”



“それよりはGoogleのほうがすぐ出てくるなって”

J

(1年目調査)

「検索エンジンこそ合理的」

- ピンポイントに欲しい情報が入手できる…3件
- 大量の情報が入手できる…3件
情報探索の目的を達成するために合理的と解釈
- DBと異なる論文が入手できる…1件
明確に論文の入手を意図
利用経験からDBとの併用が合理的と解釈

論文の“検索の仕方は習ったことはない”が、
“それぞれに別々の論文がヒットするので”
Google, Google Scholar, CiNiiを併用した

K

(2年目調査)

「検索エンジンはピンポイントに欲しい情報が入手できる」

- 効率性を重視
- 利用経験に基づき図書(図書館)をネガティブ、検索エンジンをポジティブに解釈

“効率が悪いじゃないですけど、
図書館にお目当ての本があるのかもわからないし
…あったとして、その本の中にも
〈欲しい情報が〉入っているかがわからないし”



検索エンジンは
“ピンポイントでは当たらないかもしれないけど、
少なくとも近似値のサイトはパッと出てくる”



(2年目調査)

「検索エンジンは 大量の情報が入手できる」

- 利用経験に基づいた解釈
- 「大量の情報を比較するのが望ましい」
…という判断が前提にある

検索エンジンは“2個, 3個どころかたくさんの数が出て”
“情報をいろいろ比較して”いける。
この事例だけでなく,
“調べものがいっぱいある授業とかでも
同じような形でやります”

習慣的に検索エンジンを利用

高校時代および大学入学後に何回か
“「調べものをするとしたらこんな」みたいな”教育を受けた

J

(2年目調査)

検索エンジンとウェブサイトをそれぞれ解釈

- 「本来はウェブサイト以外を使いたいが、検索エンジンを使うしかない」…4件
 - ウェブサイトは望ましくないものと解釈

“本のほうがサイトより信憑性が高”いと教わった

B

(2年目調査)

- 他の情報メディアは利用できないと判断
知識不足/図書館の休館/時間的制約
- 使い慣れた検索エンジンで“一応どうにか”(B2)する
- 「ウェブサイトこそ合理的であり、検索エンジンこそが合理的」…1件

「ウェブサイトこそが合理的であり、検索エンジンこそが合理的」

- 課題と過去の教育から必要な情報を判断

“1つのソースだけに当たっちゃうと偏っちゃうかなと思うんで”
“思いつく事例を考えて、それについて
…論文とかニュースとか、あと、文部科学省の調査”を探そう

(2年目調査)

ウェブサイト:

ニュース, 調査報告の入手ができるもの

検索エンジン:

複数種類の情報を一度に入手できるもの

大学生にとっての 検索エンジン, ウェブサイト

- 検索エンジンとウェブサイトは区別される
- 多くの場合で目的のために合理的なものと解釈されて選択される
 - 「手軽な, 使い慣れたもの」という解釈や, 知識不足のために検索エンジンを選ぶ場合もある(12件/36件)
- 「ウェブサイトをネガティブに解釈し使わない」
場合はある
 - 教育に基づいて「望ましくないもの」と解釈
- 「検索エンジンをネガティブに評価し使わない」
人はいない
 - ネガティブな利用経験を持っている人はいない